

1 学習に取り組んでいる主な分野

<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 海洋	<input checked="" type="checkbox"/> 防災・減災	<input type="checkbox"/> 気候変動
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 環境	<input type="checkbox"/> 文化多様性	<input type="checkbox"/> 世界遺産・文化財
<input type="checkbox"/> 国際理解	<input checked="" type="checkbox"/> 平和	<input type="checkbox"/> 人権	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等
<input checked="" type="checkbox"/> 福祉	<input type="checkbox"/> 生産と消費	<input type="checkbox"/> その他 ()	

2 ユネスコスクールとしての活動の概要

本校は「地域とのつながり、直接体験の重視」を活動テーマとして、ESDについて、ユネスコスクールが重点的に取り組む3つの分野を通して、持続可能な将来が実現できるような価値観と行動の変革をもたらすことと捉え、実践を通して「人」とのつながりから、共生社会の生き方について考える力を育成することを目標とした。「環境・エネルギー」「地域遺産・世界遺産」「人権・福祉」を柱に、①高齢者や障がいをもった方との交流学习、②身の回りの環境に係る活動、③地域の文化遺産に係る学習を行った。



3 特徴的な活動事例の紹介

○「心をつなごう」持続可能なまちおよび持続可能なライフスタイルに関わる学習

福祉教育との関連から、3年生では、点訳ボランティアの方や目の不自由な方、耳の不自由な方との交流を通して、苦労や努力、工夫や願いを知り、目や耳の不自由な方と共に生きるためのまちづくりやユニバーサルデザインなどについて調べる学習を仕組んだ。この学習を通して、みんなが安心して暮らせるようにできることを考え、いろいろな人と進んでかかわりをもとうとする気持ちを育てることができた。



4年生では、自分たちの生活の中からごみ処理やリサイクルについての課題を見つけ、日常生活で出てくるごみを減らすためにできることについて調査活動を行い、ごみを減らすための工夫を考え、行動を具体化するために、プログラミング的思考を働かせ、生活にいかすことができるように学習を仕組んだ。この学習を通して、ごみを減らす行動をできるだけ具体化させるために、フローチャートで整理し、実践意欲を高めることができた。

○ 地域よさ文化遺産、地域の「人」とのつながりに関わる学習

今年度で7年目の活動となる、地域住民やPTAと連携して「地域を花と挨拶でいっぱいにする」ための「～銀水花いっぱい‘絆’プロジェクト～」に取り組んだ。校区のまちづくり協議会の方を中心に連携して、地域とのつながりを意識することができた。子ども達のために花壇を手入れしてくださったことを知り、子ども達は郷土への愛着が高まり、地域の方々への感謝の気持ちを一層もつことができた。

6年生では、大牟田や荒尾の近代化遺産について詳しく調べたいことの学習計画を立て、自分が選んだ大牟田・荒尾のよいところについて調べる学習を行った。また、GTの方から話を聞いて調べる観点を明確にしたり、近代化遺産を見学したりして郷土のよさに気づき、それらを知ってもらいたいという郷土を愛する心情を育てるようにした。さらに、近代化遺産を守る取組やよさを知らせるための努力について調べ、地域に残る文化遺産を実際に見たり、パンフレットや本などの資料から調べたりしたことを、イラストマップやプレゼンテーション等で工夫してまとめることができた。また、修学旅行を通して長崎に落とされた原爆の恐ろしさや、平和の尊さを学び、世界中の人たちが平和に暮らしていけるようにすることについて考えたり、自分の考えについて新聞づくりを通して発信したりした。



3 今後の活動計画

令和7年度は、ESDにおいてさらに、「価値観の変容」「行動化」を柱とした体験活動や探究活動を充実させていきたい。そのために、

1. 身につけさせたい資質・能力、具体的な子どもの姿を明確にし、子ども達の主体的・探究的な学び（課題設定→情報収集→整理分析→行動・発信・振り返り）を推進する。
2. 各教科・領域等で身につける内容を生かし、子ども達が自分事として問題に取り組むためのストーリーマップを作成し、教職員で共通理解・共通実践できるようにしていく。
3. 地域とつながりができるように、ICTを活用して実践事例を蓄積していく。